ふくしま再生の会　果樹農業への挑戦

認定NPO法人ふくしま再生の会『ブドウチーム』の(左から)北原高次(たかじ)さん、小原壮二さん、髙木浩子さん。佐須地区の畑にブドウの苗を定植して6年目。獣害や遅霜に苦労をしながら19品種を育て、栽培と収穫、醸造(委託)を通じてこの地に合う品種を見付けようと取り組んでいます。収穫したブドウのみでの醸造は2度目。試飲用のワインが完成しました。

それぞれ農業とは縁遠い職業を定年退職してから、"通い農業"での挑戦です。「この土地を守ってきた皆さんの苦労に思いを馳せながら畑仕事をしています」と髙木さん。リーダーの小原さんは「いつか醸造まで村でできるようになったらいいですね」と夢を描いています。

第３回 ワクワクおでかけマルシェ

文句なしの五月晴れとなった5月3日、加工施設「もりの駅まごころ」で飯舘の「食」を味わえる『第3回ワクワクおでかけマルシェ』が開催されました。当日は、屋外に並んだテントで、ナツハゼのドリンクや荏胡麻の五平餅など、村内の生産者が腕によりをかけた加工品を販売。また、屋内では蕎麦や飯舘産黒毛和牛のスープなどが提供されました。村内外から多くの人が訪れ、生産者との交流を楽しんでいました。

綿津見神社例大祭 地域の芸能も復活

4月29日、綿津見神社で例大祭が行われました。震災前は3年に1度、2日間にわたって行われ、各地区の芸能が奉納されていました。震災後は平成29年に復活したもののコロナ禍で再び途切れ、今回が7年ぶり。芸能の奉納を伴う神輿渡御は平成21年以来15年ぶりです。

正装した氏子や観客が見つめる中、新しい踊り手も加わった「宮内の笠踊り・手踊り」が奉納され、神輿は八木沢、小宮、関沢、伊丹沢、深谷と各地区を巡りました。

氣まぐれ茶屋のドブロクを味わって

5月17日から19日の3日間、「コラッセふくしま」(福島市)で『氣まぐれ茶屋ちえこ』のどぶろく『白狼』試飲販売会が行われました。期間中は店主・佐々木千榮子さん(佐須)の娘のかおりさん(大久保・外内)が来場し、すっきり辛口の『白狼』の魅力をPR。おこわや漬物、凍み餅など、店の看板商品も販売しました。19日は市内で開催されたハーフマラソン大会の参加者なども訪れ、県内外の多くの人に商品を手にとってもらえたそうです。

福島市からの感謝状を報告

渡邊富士男さん(飯樋町)をはじめとする「健康とゴルフを楽しむ仲間の会」が、4月19日、福島市の「子ども・子育て基金」に8万3,196円を寄附しました。

渡邊さんは、この寄付の発起人で、「福島市のヤングケアラーの支援や、啓発活動に充ててほしい」と話しています。

渡邊さんの友人やゴルフ仲間から、参加したゴルフの大会やコンペの際に寄付を募り、昨年に続いて2度目の寄附を行ったそうです。

福島市から会に贈られた感謝状を手に。5月14日、渡邊さんが来庁し、杉岡村長に報告しました。

森林組合が飯舘みらい発電所視察

5月1日、福島県森林組合連合会及び県内各地区の森林組合の皆さんが、蕨平地区に整備された木質バイオマス発電所『飯舘みらい発電所』を視察しました。7月の本格稼働に向けて準備を進める同発電所は、村を中心とした被災市町村の間伐材や樹皮などを年間約9.5万t使用して発電し、余熱を農業に活用することも計画しています。林業を担う皆さんが実際に施設を訪問し、事業への理解醸成が進む視察となりました。

災害救助犬 じゃがいも 道徳の教科書に

震災直後に村で生まれ、飼い主の避難に伴いNPO法人日本動物介護センター(岐阜市)に預けられた雑種犬のじゃがいもは、約5年間の訓練と11回の挑戦で、災害救助犬の認定試験に合格。飯舘村の「わんダフルまでい大使」も務めました。

このじゃがいもと訓練士・上村智恵子さんのエピソードが、小学6年生の道徳の教科書(日本文教出版)に掲載されました。じゃがいもは能登半島地震の被災地に駆けつけるなど今も元気に活躍しています。